



上ホロ「安政火口」周辺で冰雪訓練

例年通り、2025年12月第1週末の6日と7日の2日間、冬シーズン初めに合わせて、上ホロカメットク山・安政火口付近でアイゼン・ピッケルを使った冰雪訓練を行った。参加者は8人。安政火口手前では社会人山岳会や大学生のグループなど4団体がテント村を作って、我々同様に冰雪訓練を行っていた。

初日6日は、この時期ならではの天気ですぐから崩れ気味となったが、十勝岳温泉・凌雲閣前からヌッカクシフラヌイ川右岸沿いに進み（写真①）、安政火口脇の堅雪の斜面で、アイゼン・ピッケル歩行、滑落停止（写真②）、耐風姿勢などの確認作業を行った。

2日目の7日は視界がきく中、安政火口から三段山ガケ尾根へ急斜面を上がって（写真③）三段山山頂（写真④）を往復した。ガケ尾根の手前と、尾根に上がって（写真⑤）しばらくは、ほどよい堅雪の斜面になっており、アイゼンやピッケルの効きを確認するには丁度良かった。

宿泊場所の吹上温泉「白銀荘」では、齋藤リーダーの指導で、積雪期のロープワークの基本、テープスリングとカラビナによる簡易ハーネス（チェストハーネスとシートハーネス）づくり、ツェルトを使った負傷者搬送（写真⑥）などに取り組んだ。

○参加者 CL 齋藤幸市、SL 佐藤精久、石手洗庸、久保田優一、黒川伸一、小玉孝之、山崎裕侍、吉田郁子



【目次】

- 12月-1月の山行報告 2 - 5
- 日本山岳会創立120周年記念式典・晩餐会... 6
- 北海道支部忘年会 7
- 北海道山岳団体交流会 7
- 今後の山行予定 8

三段山・白銀荘でスキーと雪崩トレーニング

12月20-21日【スキー】 黒川伸一

冬シーズン初めの新雪・深雪スキー山行として、今冬も2025年12月20日、21日に吹上温泉「白銀荘」を宿泊施設にカミフエリアでの山行として企画し、16人が参加した。あいにく異常な暖気と雨のタイミングにぶつかり、積雪斜面は固く、新雪・深雪滑降を望むべくも



なく、雪崩トレーニング主体の2日間となった。

各種雪崩講習会で北海道雪崩研究会の講師として活動する酒井会員と山崎邦子会員に講師になってもらい、雪崩対策の基本になっている雪崩トランシーバーの使いこなし習熟に力を入れて指導してもらい、トランシーバーの基本操作を学ぶことに時間を割いた。

三段山（写真左）の二段目下では、2パーティーに分かれ、単独と複数の埋没者の捜索の基本形である4段階のエアポートアプローチとメンタルマップ、プロービングによって埋没者の位置を特定する行程を反復練習した（写真右）。雪崩トランシーバーは現在、海外6社の製品20種余りが販売されているが、製造時期や各製品ごとに捜索機能が異なっているため、白銀荘の座学では、各自が持っているトランシーバーの性能確認と複数埋没時のマーキング（捜索解除）法などの確認を行ってもらった。
○参加者 CL 黒川伸一、SL 高尾美緒、SL 田中健、久保田優一、小玉孝之、今芳文、齊藤宣明、酒井史明、佐々木美恵、藤田宗昭、山崎邦子、山崎裕侍、横山諒平、吉田郁子（会員外）三輪英俊、吉住琢二

夏山納会&冬山始め懇親会、白石ルームで開催

夏山シーズンが終わり、冬山シーズンの始まりを控えた11月9日、白石ルームで、「夏山納め」と「冬山始め」を兼ねた懇親会を開き、17人が懇親を深めました。ルー



ムの利活用促進を目指した取り組みの一環です。

道内の山岳古道調査の取りまとめを担当した荒田孝司会員が、伊能忠敬の蝦夷地測量に先駆けて東蝦夷地の測量・地図制作を行った堀田仁助（1745～1829）の功績について話し（写真左下）、9月に入会した石手洗庸会員の自己紹介などで盛り上がりしました。

懇親会の前後で、この日が冬物セール最終日だった秀岳荘に立ち寄る参加者も目立ちました。会費の残額約5000円は、ルーム会計に寄付しました。

○参加者 荒田孝司、石手洗庸、菊地宏治、北川麻利子、久保田優一、黒川伸一、齊藤宣明、佐々木美恵、佐藤康久、須田康仁、田中健、谷口美咲、中沢友佑、橋本一郎、三浦一恵、横山諒平、吉田郁子

キロロ1107峰スキー山行に思う

1月2日【スキー】 山崎裕侍

誰が名付けたか定かではないが、標高1107mの名もなきピークは「イレブンセブン峰」と呼ばれている。キロロスキー場駐車場からのアプローチの良さ、標高差500メートルほどでスキーに適した斜面がいくつもあり、極上のパウダーが味わえる。

1月2日、5人でこの山に入る。去年も同じ時期に登ったが、今年は明らかに雪が少ない。渡渉ポイントのスノーブリッジは頼りなげだ。斜面を見上げるとブッシュがいたるところから顔を出している。

計画していたルートは開けた沢本流沿いの右岸を行くものだったが、先行トレースに引っ張られ、隣の沢筋に入ってしまった。気候の変化が登山者の心象にも影響を及ぼすのだろうか。

元のルートに戻るべく急登で僕たちが停滞していると、3人組の西洋人たちが追い越していく。どこに行くのかと聞けば、「この辺を登って、よさそうな斜面を滑るんだ」と答える。去年もこの周辺を楽しんだと話す。この日は複数のパーティとスライドしたが、多くは外国人だった。

標高1107mに到着（写真左下）したころには、途中一瞬現れた青空も消え、吹雪が勢いを増してきた。気温はマイナス7度くらいか。

沢本流の左岸を滑る（写真右）。視界が悪いため、互に見える範囲で止まりながら慎重に進んだ。雪質は弾



力がある重めなパウダーで、深さは膝下くらい。十分楽しいが、ところどころブッシュが表出し、足をひっかけると危険だ。

温暖化の影響はじわりと白銀の世界を変えつつある。先が見えない不安を覆い隠すように、雪が音もなく降り続く。晴れていたら日本海が見渡せ、余市岳が群青の空の下に白い頂を輝かせるだろう。こんな日にも、雪雲を通して淡い光を放つ稜線の彼方の太陽に幻想的な美しさを感じる。「美しい」。僕の口からこぼれ出た言葉は、いつか見られなくなる消えゆく景色だと心の奥で分かっているからだろうか。

○参加者 CL 黒川伸一、平松昌子、山崎裕侍、横山諒平、渡部雅寿

幻想的な景色と - 定山溪天狗岳III峰・II峰

1月3日【スノーシュー】 竹崎良子

午前7:45過ぎ、道道小樽定山溪線沿いの滑沢1号林道から、小雪の降る中、時折の晴れ間をあてにして、4人で林道わきの尾根をスノーシューでハイクアップ。パウダースノーの積雪。マイナス10度越えの中、先行パーティのトレースを少々お借りしたが、敢えて新しいパウダーの上をラッセルして標高を稼いだ。

尾根を乗り越えて(写真左中)、III峰(1114㍎)へ到着する(写真右下)。周囲は幻想的だった。時折雲が薄くなり、そこから垣間見える太陽の光が山容を神々しく柔らかく照らしていた。II峰、本峰方面の岩肌に向かって射す光。寒さで空気も凍っているように感じる。



威圧感あるII峰～本峰の西面。その様相に息を呑む(写真右上)。夢中でシャッターを切る。II峰へ進む急こう配の中、カメラも雪まみれになったが問題ない。

高揚した気持ちを持ってII峰(写真左下)へ向かうが、最後の登りに苦闘した。CLにスリングで引っ張り上げてもらう。体力が無いと改めて感じる。下りは20mロープを出してフィックスしてもらう。CLの判断は的確だ。安全に下りて来られた。下山時には晴れ間も見られたが、あの雰囲気の中での撮影は素晴らしかった。また、あの景色に出会えるかどうか。山の神に尋ねたい。

○参加者 CL 名和田豊、竹崎良子
〈会員外〉新田聡(名和田友人)、土倉雄(竹崎友人)



禪山(つげやま・935m)

1月12日【スノーシュー】 藤木俊三

6人で札幌近郊の禪山(つげやま・935m)にスノーシューで登りました。三等三角点があり、地形図にも山名が記載されていますが、札幌の市街地からは見えず、登山口付近からも山頂は見えない地味な山です。夏道はなく冬季に主にスノーシューで登る人が多いようです。

1月12日は祝日で3連休の最終日でしたが、天候もあまり良くなかったせいか入山したのは私たちだけで、トレースは全くありませんでした。登山口の入林屈をみると直近に登った人は1月6日で、よく見ると林道にかすかにその痕跡がありましたが、登山口からいきなり膝までの新雪のラッセルとなりました。湿雪気味のやや重たい雪でしたが、6人で交代しながら進みました。雪山で先行パーティのトレースを踏んで行くのは楽ではありますが、どこか面白味に欠けます。こうして何もない雪の中をラッセルしてルート作っていくのも冬山の醍醐味ではないかと思いました。

1時間ちょっとで「つげ山」と小さな看板のついたダケカンバが現れ、その少し先で右側の沢をスノーブリッジで徒渉(写真左下)、北西尾根に取り付きました。尾根は広い緩斜面の樹林帯で、ところどころにルート示すピンクテープがついていました。45分ほどで地形図上の755mポイントに到着。

ここから少し下って、それまでとは違う細い急な尾根を登ります。尾根上は西からの強風が樹林の中を地吹雪となって吹き抜け、この日一番の難所でした。傾斜が緩



くなると尾根は広くなり、このころになると青空がのぞいて日も差し、雪をまとった木々が美しく輝き、冬山ならではの景色を楽しみました。

広い台地状の雪原を進むと左奥ようやく山頂が見えました。そして樹林の緩斜面を15分ほど登ると、「つげ山 山頂935m」という看板が取り付けられたダケカンバの木が立つ頂上に到着です。出発からおよそ3時間半でした。山頂の天気はまずまずでしたが、雲が多く、周りの山は奥手稲山くらいしか見えませんでした。

風も強いので、全員で記念写真を撮って(写真右上)早々に山頂から下り、比較的風の当たらないところで簡単に昼食を食べました。帰り(写真右中)は、細い急尾根は相変わらず風が強く歩き辛いところもありましたが、おむね登りのトレースをそのままたどり、およそ2時間で登山口に戻りました。

○参加者 CL 藤木俊三、京極紘一、藤原千恵、李曼葛、石丸なみ、藤原仁

会員・会友の動向

■新入会員 小野 聡子 17618

日本山岳会創立120周年記念式典・晩餐会に参加して

高橋健

2025年12月6日、東京・新宿の京王プラザホテルで日本山岳会創立120周年記念式典及び記念晩餐会が開催された。入会から約20年にして今回初めて晩餐会に出席したのは、創立120年ということで天皇陛下が臨席されること、そして私も調査執筆に関わった山岳古道調査プロジェクトなど創立120周年事業の展示を見るため。北海道支部からの出席者は8名だった。

会場受付横ではJACロゴマークの焼き印入りのどら焼きが販売されていた。100年前の1925年にカナディアン・ロッキーのアルバータ山に初登頂した三田幸夫氏のご息女である芳賀淳子さんが描いたアルバータ山の絵が包み紙に印刷されており（写真左中）、数個購入。山岳古道の展示では、プロジェクト担当者にご挨拶できた。「人生100年時代の安全登山プロジェクト」展示では、65歳以上の会員へのアンケート調査から「人生100年時代の安全登山とは、登ること、眺めること、語り合うこと、仲間と分かち合い、記録し、伝えることまで、すべてが登山である」とまとめられていた。「山とともに生きるー人生を豊かにした10人の物語…無理をしない、仲間と歩く、自然に学ぶ、生涯登山という生き方」という展示には、91歳の芳賀孝郎、淳子ご夫妻の写真とともに、『無理をせず、我慢せず、自然体で気ままな男が語る登山人生の知恵…』と題して孝郎さんのコメントが掲示されていた。50代半ばの私がこれから長く登山を続けていく上で大切な考え方と感じた。



なお120周年記念講演は、1999年にエベレストでマロリーの遺体を発見したヨッヘン・ヘムレブさんによる「エベレスト最大の謎 マロリーとアーピンの捜索40年」と、日本のヒマラヤ登山の第一人者で今年度の秩父宮記念山岳賞表彰の受賞者・重廣恒夫元副会長による「日本山岳会ヒマラヤ登山の歴史」だった。

記念式典では、入場される天皇陛下を間近に目にすることができた。2025年の新入会員を代表して挨拶したのは、芳賀孝郎、淳子ご夫妻のお孫さんの勝沼昌太郎さん(東京支部)であった。2名の秩父宮記念山岳賞表彰・受賞者(重廣さん、沖允人さん)の挨拶も行われた。

晩餐会会場には、日本百名山の山名が付いた71のテーブルが並び（写真左下）、天皇陛下やジュリア・ロングボトム駐日英国大使夫妻と橋本しをり会長等は最前列中央の「富士山」テーブル、芳賀夫妻や勝沼さん、イザベル・デニョカナダ山岳会会長（写真右上・右から2人目＝道支部会員と）等は隣の「槍ヶ岳」テーブル、北海道支部会員は3列目中央の「雨飾山」テーブルに着座した。

供されたワインのラベルには、日本山岳会設立のきっかけをつくったウォルター・ウェストン師の写真。彼の出身国・英国のロングボトム大使による流ちょうな日本語での来賓挨拶は、日本の自然、伝統や文化を高く評価する内容で、とても感銘を受け、自然と涙があふれ出た。

陛下が臨席されているために席を立つことは許されなかったが、和やかに会は進み、国際政治の世界で対立する中華人民共和国と台湾の山岳会代表者が同じテーブルに座り、にこやかに談笑する光景も目に入った。登山は、国家や地位をこえて仲間をはぐみ、連帯感を生んできたのだと改めて感じ、当初の目的以上に得るものが多い記念式典、そして晩餐会出席であった。

○北海道支部参加者 菊地宏治、清水義浩、峠原直美、田中健、芳賀淳子、芳賀孝郎、和田マサコ



2025年度 日本山岳会北海道支部忘年会

清水義浩

2025年12月14日、札幌・中島公園近くの札幌エクセルホテル東急に、道内各地から会員・会友ら26名が集まり、北海道支部の忘年会在盛大に開催されました。

黒川支部長の挨拶、そして菊地宏治会員の発声による乾杯で開宴（写真右上）。年に一度の忘年会とあって参加者は、井田会員の特別なはからいで供されたコック長自慢の料理に舌鼓を打ちながら、それぞれの近況報告などを語り合っていました。前週に東京で開催され、天皇陛下も臨席された日本山岳会創立120周年記念式典晩餐会の様子を、陛下とお話をされた芳賀会員の口から聞くこともできました。

忘年会後半は恒例のビンゴ大会。ホテル備え付けのスクリーンにビンゴの番号が投射されるという画期的な装置で場が盛り上がり、参加者の皆さんがそれぞれ持ち寄った品を、当選した方々に景品としてプレゼントしました。また、会場にはスケッチクラブの作品も展示され、それぞれの作者が作品について説明し、参加者が熱心に聞いている姿もありました。



○参加者 荒田孝司、荒谷雅子、井田雅之、市毛三朗、今田美知子、金子由美子、菊地宏治、北川麻利子、京極紘一、久保田優一、黒川伸一、坂上信之、清水義浩、鈴木貞信、須田康仁、高橋健、田中健、中沢友佑、新井田幸子、芳賀淳子、芳賀孝郎、橋本一郎、平田健三、藤木俊三、和田マサ子、波田初子

北海道山岳団体交流会開催

清水義浩

毎年恒例の北海道山岳団体交流会が、2025年は北海道山岳ガイド協会の幹事で11月26日に、札幌テレビ塔2Fホールにおいて開催されました。2009年に6団体の参加で始まったこの交流会、16回目の開催となった今回は、新たにNPO法人増毛山道の会も加わり、

12団体、総勢50名ほどの山屋たちが旭岳や幌尻岳などの山名がついたテーブルに集いました。

会は、北海道山岳ガイド協会の宮下岳夫会長の挨拶、そして乾杯で始まり、途中、参加団体からの活動報告などが行われました。日本山岳会北海道支部からも7名が参加し、芳賀孝郎会員がスピーチしました（写真左下）。

7つのテーブルでは、終始、山談議に話がはずみ、あっという間の2時間で、最後は、次回幹事団体の北海道道央地区勤労者山岳連盟の佐藤信二会長のあいさつと乾杯でお開きとなりました。

それぞれの所属団体の垣根を越えて、山好き同志の交流会、これからも山での横の繋がりを大切に、山を楽しみたいと思いました。

○支部参加者 井田雅之、黒川伸一、清水義浩、高橋健、田中健、芳賀孝郎、藤木俊三

*北海道支部会員として参加した方のみ記載



住所、メールアドレス変更時にご連絡ください

宛先不明で郵送物やメールを送付できなくなるよう、住所やメールアドレスを変更された場合は、必ず下記の支部事務局担当者まで、ご連絡いただくようお願いいたします。

●清水義浩事務局長 sankakuten1188@gmail.com TEL 080-6384-9181

●齊藤宣明事務局次長 kumalete200n.s@gmail.com TEL 090-7657-1385

今後の主な山行予定

- 2月1日(日) ●恵庭溪谷 モイチャン滝【アイスクライミング】 L: 齋藤幸市 日帰り
- 2月7日(土) ●白井岳 朝里岳沢ルート【スキー】 L: 山内忠 日帰り
- 2月11日(水・祝) ●奥沢水源地 - 於古発山 - 遠藤山【スキー】 L: 黒川伸一 日帰り
- 2月14日(土) ●オコタンペ湖 - フレ岳 - フレ沼【スキー/スノーシュー】 L: 佐藤精久 日帰り
- 2月15日(日) ●飛散岳・北飛散岳【スキー/スノーシュー】 L: 黒川伸一 日帰り
- 3月1日(日) ●労山熊見山「奥の院」【スキー】 L: 黒川伸一 日高町民泊施設前泊
- 3月7日(土) ●幌内山(賀茂川 or 新幹線トンネル口から) / 寿都天狗山 or 観音山【スキー】
～ 8日(日) L: 黒川伸一 黒松内ぶなの森自然学校泊
- 3月14日(土) ●増毛山地の山(知来岳、増毛天狗岳、雄冬山など)【スキー】 L: 佐藤精久
～ 15日(日) 増毛町・はまなす会館泊
- 3月20日(金・祝) ●恵庭岳 北東尾根ルート【スノーシュー】 L: 藤木俊三 日帰り
- 3月20日(金・祝) ●道東の山(斜里岳 + 雄阿寒岳、藻琴山など)【スキー + アイゼン】 L: 田中健
～ 22日(日) 斜里温泉泊予定 ※定員6人程度
- 3月28日(土) ●徳舜誓山 北西尾根/オロフレ山 北西面/来馬岳-バケモノ山【スキー】 L: 黒川伸一
～ 29日(日) 現地ロッジ泊 ※定員6人
- 4月5日(日) ●本俱登山【スキー/スノーシュー】 L: 黒川伸一 日帰り
- 4月25日(土) ●中山峠-境岳-風来山-ポン山-庚申草山-東中山-定山溪トンネル【スキー/スノーシュー】
～ 26日(日) L: 佐藤精久 中山小屋泊
- 4月29日(水・祝) ●余市岳 キロロススキー場から【スキー】 L: 黒川伸一 日帰り

*天候や諸事情で中止や延期になる場合があります。定員もあるので、詳細は各リーダーまで

【申込先】 黒川伸一 E-mail: yamakuroneko@gmail.com 携帯: 090-9020-0425
 藤木俊三 E-mail: 49681sakamachi@jcom.home.ne.jp 携帯: 090-1642-2725
 山内 忠 E-mail: ezoyama@gmail.com 携帯: 080-1896-6766
 齋藤幸市 E-mail: qqy3dn9k@fuga.ocn.ne.jp 携帯: 090-1645-9695
 佐藤精久 E-mail: satouyoshihisajp@yahoo.co.jp 携帯: 090-5074-1440
 田中 健 E-mail: kenn0819@icloud.com 携帯: 090-4225-2786

「日本の山岳古道 120 選」プロジェクトの進捗状況について 荒田孝司

日本山岳会創立 120 周年記念事業の一つ「日本の山岳古道 120 選」の当初スケジュールは、昨年＝令和 7 年(2025 年)中にホームページ制作と書籍制作を完了する予定で進んでいました。

しかし、下記の理由などにより、ホームページ掲載完了の目標を 2027 年へと延期したい旨の連絡が本部プロジェクトチームよりありました。

- 最初の 3 年間はコロナ感染の関係により、活動が思うようにできなかったこと
- 本部及び支部において特定の担当者に作業が集中して、作業の進捗が滞ったこと
- 一部の古道については、調査したところ現在は歩くことができなくなっていることがわかり、別の古道に差し替えざるを得なかったこと

●膨大な情報量をホームページに掲載するのに、考えていた以上に時間を要したこと など

なお、調査延長期間においては、古道についてのより正確な情報の提供、より質の高い成果を目指して取り組む所存ですので、しばらくの猶予をいただけますようお願いいたします。

北海道支部が担当する増毛山道と濃昼山道、猿留山道と様似山道、虻田街道・中山峠、殿様街道の 6 古道については、既に期限内に原稿を本部プロジェクトチームに提出しています。執筆を担当していただいた会員の皆様には、改めてお礼を申し上げますとともに、支部山行等に参加して調査にご協力いただいた皆さまにも感謝申し上げます。